

第12回 子どもの健康と環境に関する全国調査 エコチル調査シンポジウム 2023年2月19日

講演2

幼児期のビタミンD欠乏による成長障害

熊本大学大学院生命科学研究部 小児科学分野
エコチル調査南九州・沖縄UC
倉岡 将平



今回の発表の3つのポイント

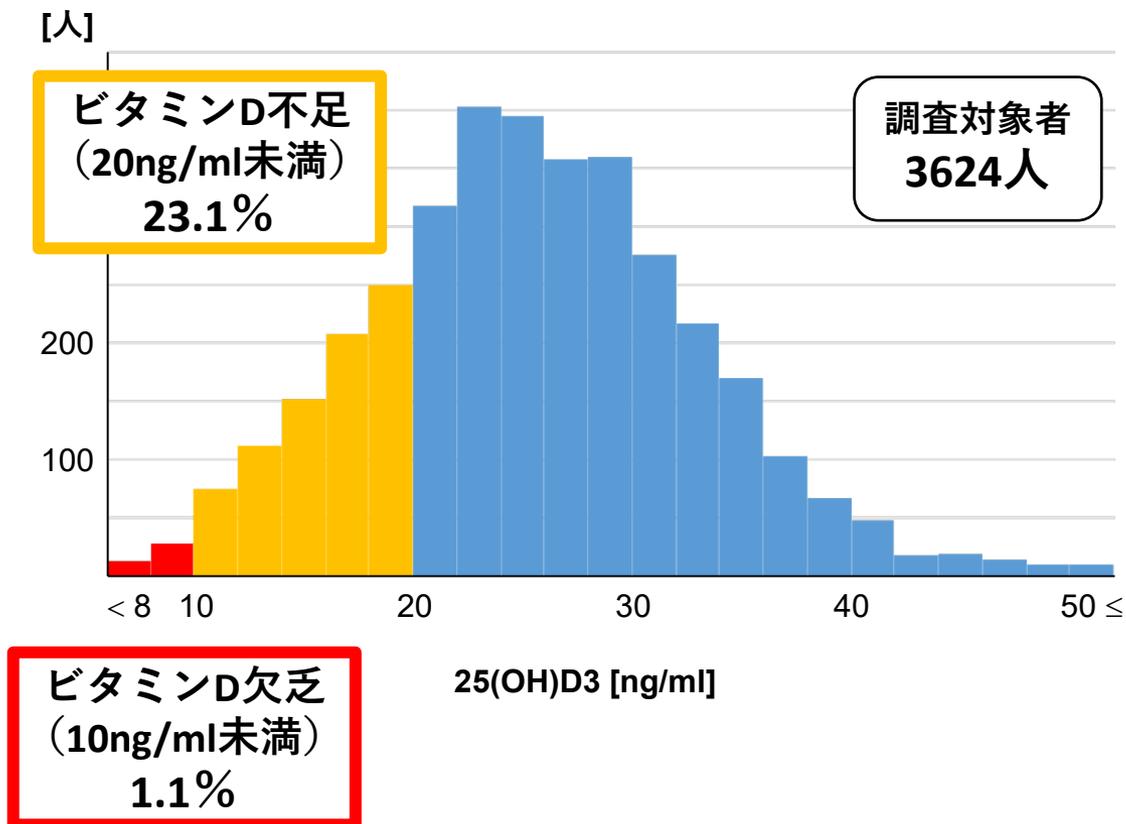
- ① 本調査で対象とした4歳児では潜在的なビタミンD欠乏が存在する
- ② ビタミンD欠乏が幼児期の成長率を障害する可能性がある
- ③ 冬の屋外活動の減少がビタミンD不足の原因かもしれない

* 今回の発表内容は2022年8月に栄養学分野の学術誌「**Nutrients**」に掲載されています

Kuraoka S, Oda M, Mitsubuchi H, Nakamura K, Katoh T, Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Impaired Height Growth Associated with Vitamin D Deficiency in Young Children from the Japan Environment and Children's Study. *Nutrients*. 2022; 14(16):3325. <https://doi.org/10.3390/nu14163325>

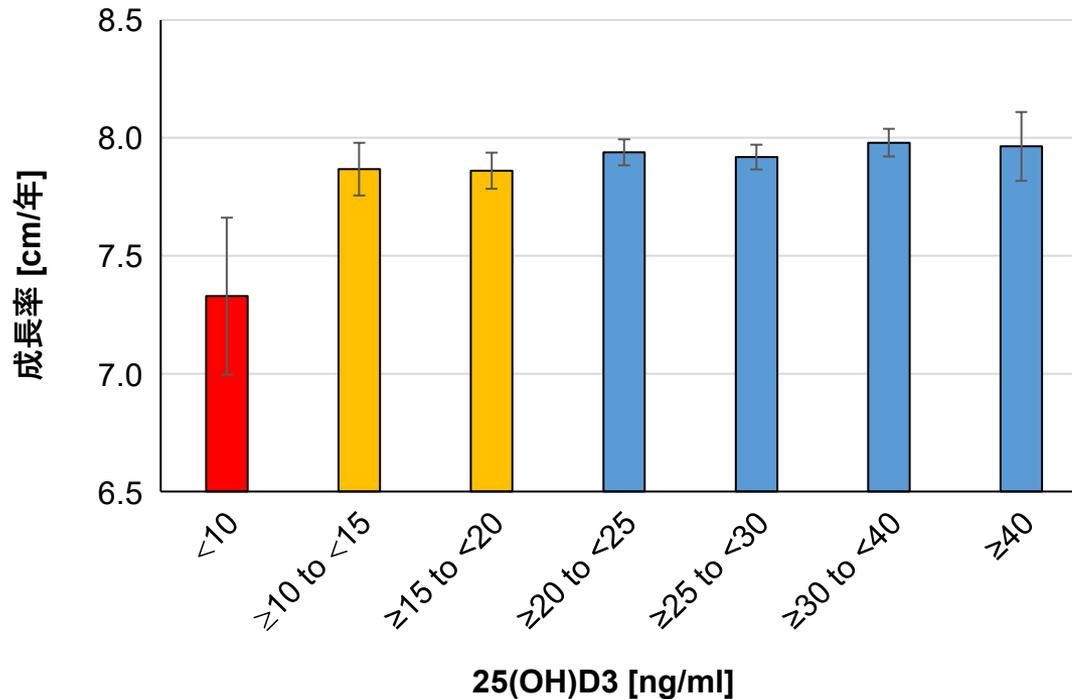
① 潜在的なビタミンD欠乏が存在する

【4歳時点の血中ビタミンD濃度の分布】



② ビタミンD欠乏群では成長率が低下

【血中ビタミンD濃度毎の成長率】



ビタミンD正常群の成長率：8.0 cm/年
ビタミンD欠乏群の成長率：7.4 cm/年



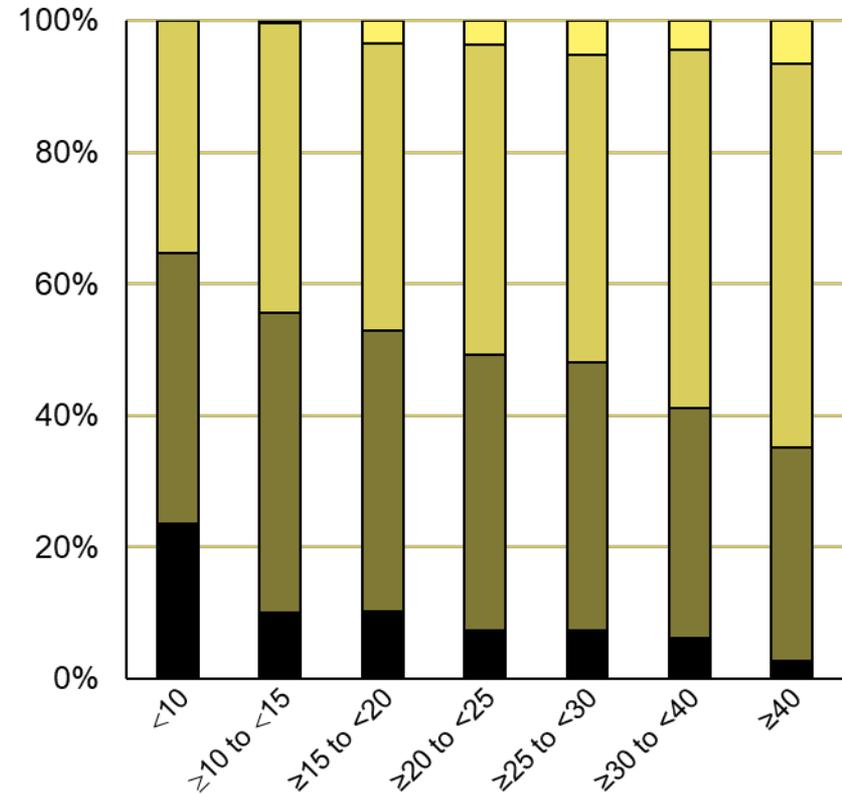
年間0.6 cmの差

③ ビタミンD欠乏群では冬の屋外活動が少ない

Q. 冬に日中（9:00～17:00）
に屋外で遊ぶ時間は？

- A.
- 3時間以上
 - 1時間以上3時間未満
 - 1時間未満
 - ほとんどない

【屋外活動についての回答結果】



紫外線を浴びることでビタミンDが生成される



屋外活動の減少はビタミンD欠乏のリスク

今後に期待されること

- ✓ ビタミンD欠乏による長期的な影響を観察していく
- ✓ 適切なビタミンDの指標が明らかになる
- ✓ ビタミンDを保つための健康的な生活や環境に関する提言

